



乗り越えようコロナの時代

若槻地区住民自治協議会 会長 村田 秋廣



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかによりき新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、こみわかの事業運営にご支援、ご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。本年も引き続き皆様方のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和3年4月に開催された定期総会ではコロナ警戒レベル5だったものが11月にはレベル1に引き下げられてきましたが油断はできません。専門家の間では第6波は必ずやってくるとの見解も出されています。海外では多くの死者や感染者の増加が報告されており、加えて南アフリカで確認された「オミクロン株」はデルタ株より感染力が強く、免疫を回避し、ワクチンの効果を低下させるとの懸念が示されています。3回目のワクチン接種が医療従事者から始まり高齢者には2月頃から開始され、順次若い年齢層に拡大するといわれています。ワクチン接種に向けて体調を整えていこうではありませんか。

コロナの影響は、こみわかの事業の運営にも多大な影響を与えています。4月の定期総会以降、大きな事業では戦没者追悼式、春季スポーツ大会、若槻子ども相撲大会、ふれあいの旅、区民大運動会、ながの未来トーク、若槻総フェスタ、新年祝賀会などが、コロナ感染対策を充分にとることが困難であり、大勢の参加が見込まれるなど開催条件が整わないと判断し、中止を決断したものであります。又その他の事業も時期の変更、規模の縮小などコロナの感染状況を考慮しながら、実施してきたところです。本年も感染対策の徹底を図りつつ、安心・安全な事業運営に努めてまいりたいと考えています。

若槻コミュニティセンターの建て替えについては、台風災害によって被災した長沼交流センター及び豊野公民館の建設を最優先としていることなどを考慮し、体育館の冷暖房の整備、高齢者の利便性を図るためのエレベーターや2階へのトイレ設置など改修案が提示されましたが、場所の選定や会議室が一室なくなることなど、問題点も明らかになってきました。市からは一定の工事の見積もりが示されてきていますので住民自治協議会として検討し方針を示す時期が来ていると考えています。

本年は、たすけあい事業の再編が4月以降本格的にスタートします。区長部では先行して取り組みをすすめてきた小田切地区住民自治協議会と意見交換会を行なってきましたので、各地区からの意見や要望を組み入れた上で準備を加速していきたいと考えています。

台風災害で被災された皆さんのための仮設住宅が建設された若槻団地・上野区の皆さんには、被災された人々を温かく迎え入れていただき感謝申し上げます。本年は仮設住宅を撤去し、現状復帰される予定です。

若槻地区の「住んで良かったまちづくり」は永遠の課題であり、願望でもあります。コロナの時代を乗り越えていくためにも、地区の皆様方の一層のご支援・ご協力をお願いし、本年も幸多き年となることをご祈念申し上げて、新年の御挨拶とさせていただきます。

